

市場から世界をみれば

ISG 情報システム株式会社 大谷淳一



料を請求され、診断がで
きなくなってしまうた。
この団体の善意は反故に
されたのであった。「技
術と人間2004年5月
「30万人遺伝子計画と生
命特許・遺伝子特許」
先天性四肢障害児父母
の会が、次のようなコメ
ます」

第17回「遺伝子情報バンク計画の問題点①」

伝子情報が価値をもつ社
会とはどのような社会な
のか、私たちは自然と遺
伝子レベルで物を考え、
人を判断するようになる
かもしれない。その結果、
遺伝的素質による差別が
露骨に引きおこされるよ
うな社会になっていくこ
とを心配している。「技
術と人間04年5月
先天性四肢障害児父母の会
私たちは新たな差別から
生まれ、遺伝子管理社会
が到来するのを恐れてい
ます」

こされることが判明すれ
ば、治療法の確立や新薬
の開発が可能となる。こ
れは巨万の富を生み出
す。さらにそれらの情報
に特許という「おまけ」
がついたら、独占状態に
もなりかねない。
癌の特効薬が完成した
としても、特許を取得さ
せていたら、その利益は
特許をもつ一企業が独占
する。そうなった場合、
特効薬を買うのに莫大な
金を要求されるかもしれ
ない。またその薬をめぐ
って、戦争が起きる可能
性もまったくゼロとは言
い切れないのである。
それに、これらの研究
が、治療のためにのみ使
用されるとは限らない。
遺伝情報を駆使し、特定
の「人種」や特定の「民族」
にのみ有効な「ウイルス」
が製造されるかもしれな
い。そう考えると、これ
らの問題に対する防御策
が示されないかぎり、「遺
伝子バンク」計画に諸手
をあげて賛成するわけに
はいかない。
現代はすでに、植物の
遺伝子組み換え、魚介の
遺伝子組み換え、動物の
遺伝子組み換えが行われ
ている時代である。未来
は明るく楽しいものであ
ってはほしいが、人類が「神
の領域」に足を踏み入れ
てしまったことも事実で
ある。
現在は、法律による明
確な規制がないと言って
いい状態である。少なく
とも、国際的かつ厳密な
ガイドラインを作成して
もらいたいものである。
参考文献「食糧操作」
株式会社学研パブリッシ
ング2011年3月8日
第3章 作物原種を刈り
集める人々

ントを出している。

個人遺伝子情報が集
められ、病気の有無から
ライフスタイルまで国家
に管理されていくような
遺伝子管理社会の到来を
恐れている。なぜなら、
カルテの電子化、ICカ
ードの実用化という動き
と、住民基本台帳ネット
ワークのコンピュータ一
元管理問題などが、30万
人遺伝子バンクと連動し
てくると、恐ろしいこと
が連想されるからだ。遺
聞いてみたところ、「生ま

確かに、遺伝子によつ
て優劣が決定されること
は、人間を数値でのみデ
ジタル的に判断すること
になる。それならば「あ
なたは、遺伝子レベルで
「遺伝子バンク構想」が
動き出していることは間
違いない。どこの国も巨
大な利権をつかもう、利
益を得ようと必死なので
ある。

先に述べたが、遺伝
子情報と家系情報を分析
し、特定の病気が特定の
遺伝子によって引き起

【略歴】

1957年北
海道美唄市生まれ。85年、
食品管理、生鮮管理のシ
ステムを開発する情報シ
ステムを創業。荷受卸売
業者や食品製造会社、仲
卸業者向けのコンサル

ティンク、セミナー、業
務改革、講演を各地で行
っている。主な執筆とし
て「青果卸の業務改善」
「青果卸の業務改善2」
「食糧操作」などがある。